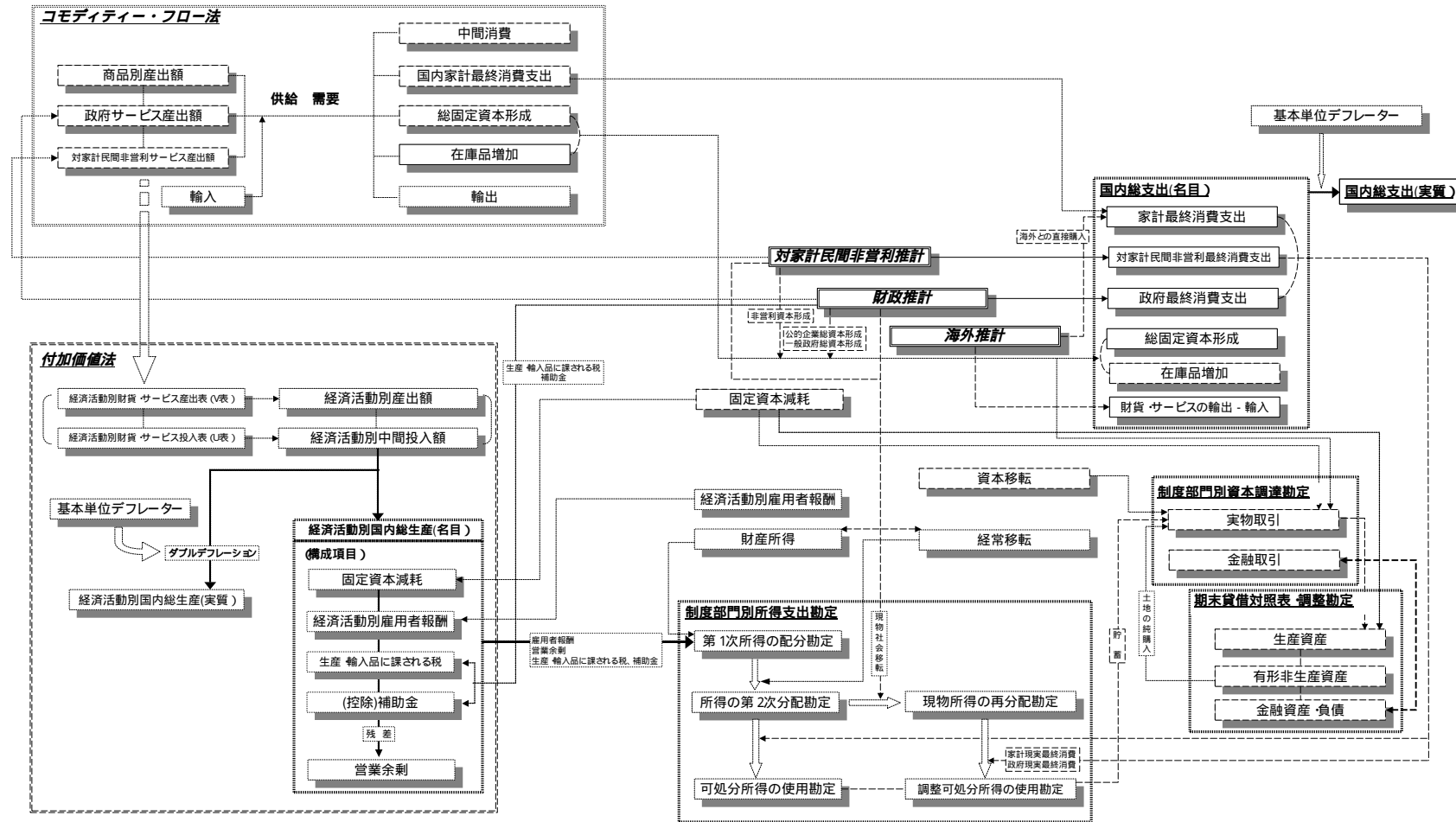
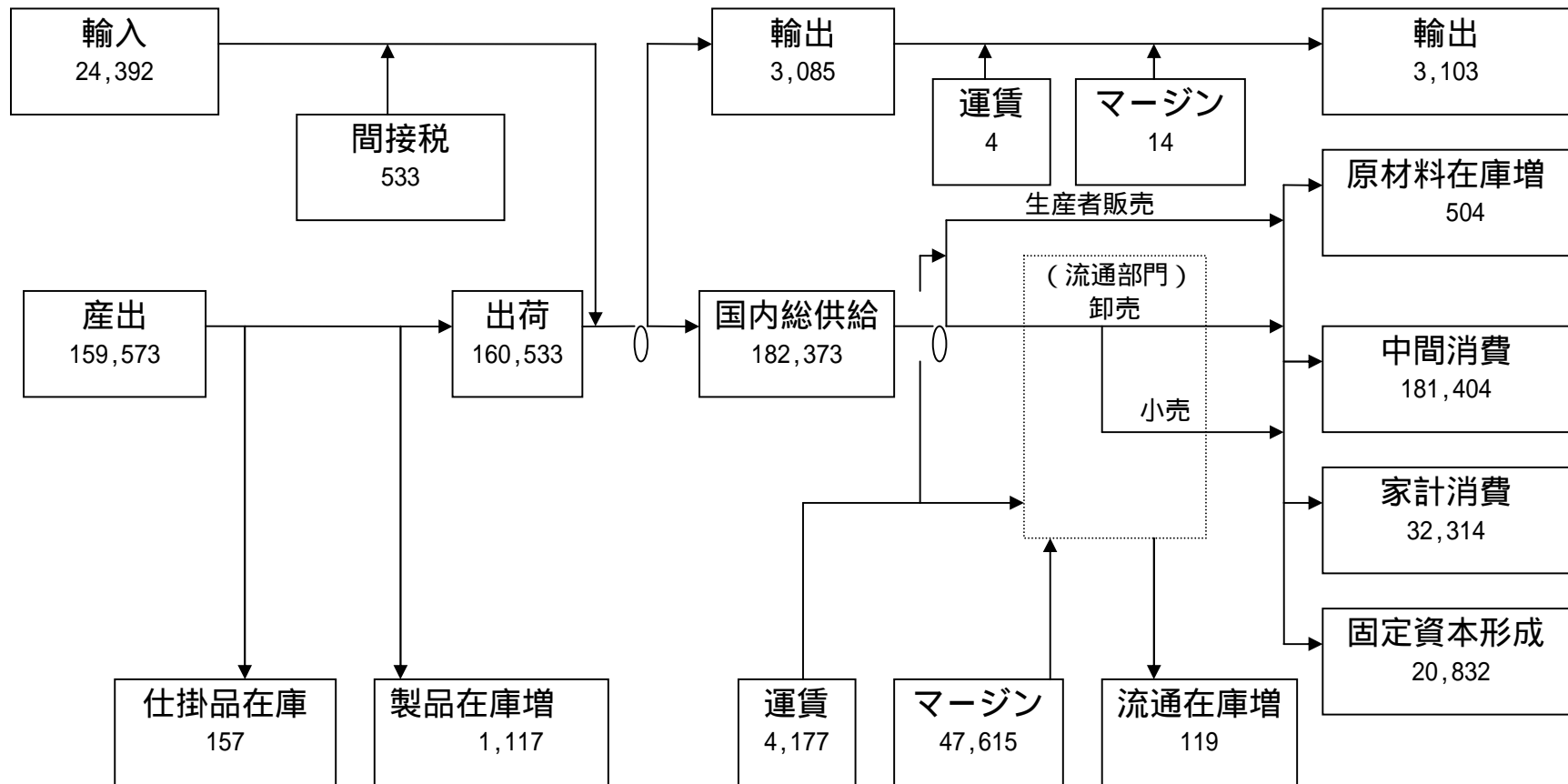


SNA推計のフロー図

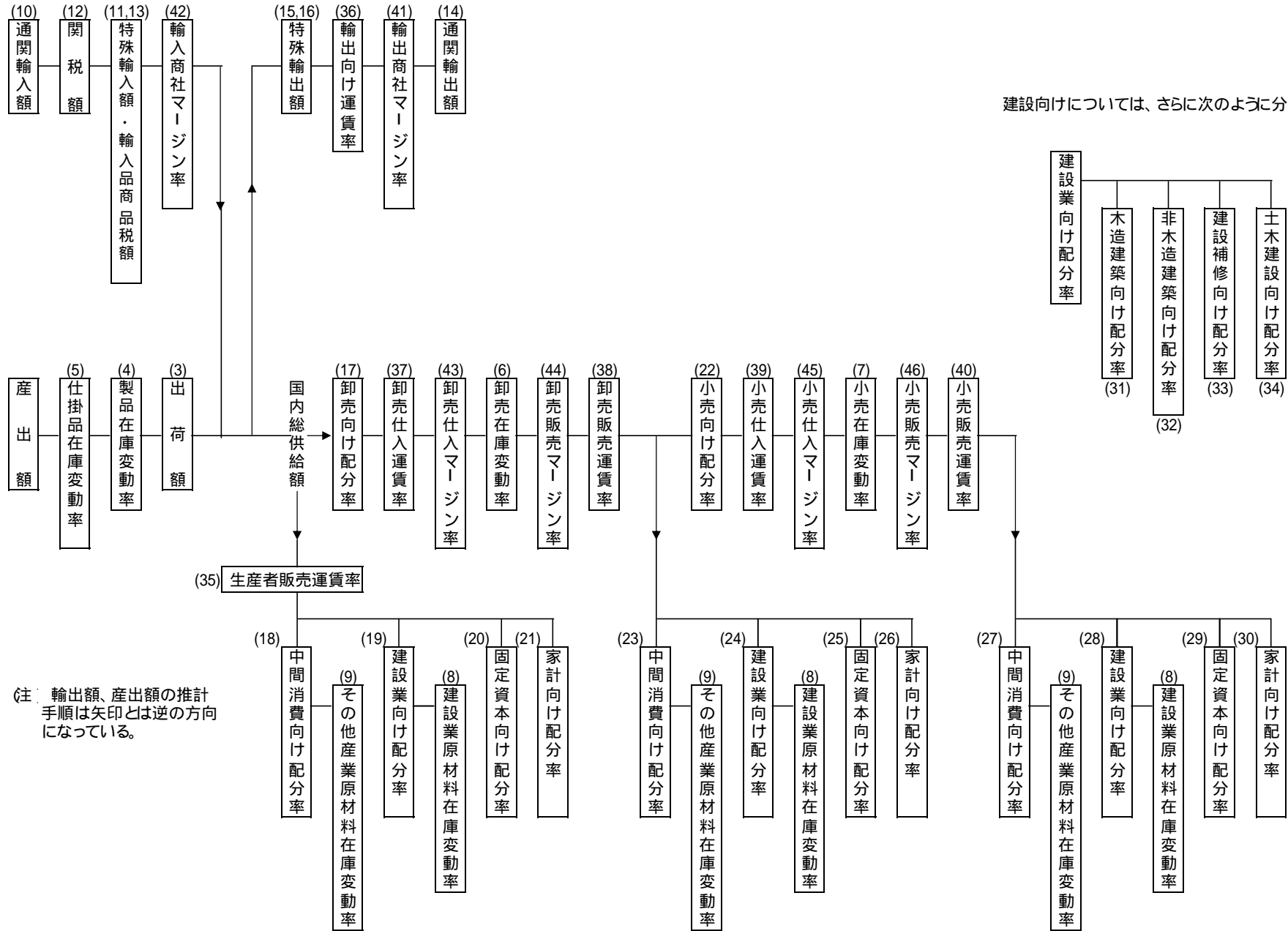


コモディティ・フロー法による推計例



輸出額、産出額の推計手順は矢印とは逆の方向になっている。

コモディティ・フロー法の流通経路



(注) 輸出額、産出額の推計手順は矢印とは逆の方向になっている。

コモディティ・フロー法における基準年次推計と中間年次推計

基準年次推計

品目分類の決定

流通経路の決定

流産業連関表の組替え・・・（産業連関表との概念、範囲の調整、仮設部門である事務用品等の全部門への配分等）

品目別の運賃・マージン率、配分比率の推計

出荷額、各種在庫変動率、輸出入額等の推計方法の検討

試算と改善（コモ法結果と産業連関表組替え値を比較しながら、配分比率等を修正）

中間年次推計

在庫変動率、運賃・マージン率の推計

配分比率（一部品目）の変更・・・自動車修理、公益事業、その他の国内通信など

産業連関表の仕組み

産業連関表のモデル

| 需要部門 (買い手) | | 中間需要 | | | | | 最終需要 | | | | | 輸入 (控除) C | 国内生産額 A+B-C | |
|---------------|------|------------|---------|----------|---------------------|---|--------|---------|--------|----------|---------|-----------------|----------------|------|
| | | 1 農林水産業 | 2 鉱業 | 3 製造業 | ・ | ・ | 計 A | 家計外消費支出 | 民間消費支出 | 政府最終消費支出 | 総固定資本形成 | | | 在庫純増 |
| 供給部門 (売り手) | 中間投入 | 1 農林水産業 | | ↑ 列 | ア 生産物の販売先構成 (産出) | | | | | | | | | |
| | | 2 鉱業 | | | | | | | | | | | | |
| | | 3 製造業 | ← 行 | | | | | | | | | | | |
| | | ・ | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ | | | | | | | | | | | | |
| | | 計 D | | | | | | | | | | | | |
| 粗付加価値 | | 家計外消費支出 | | | | | | | | | | | | |
| | | 雇用者所得 | | | | | | | | | | | | |
| | | 営業余剰 | | | | | | | | | | | | |
| | | 資本減耗引当 | | | | | | | | | | | | |
| | | 間接税 | | | | | | | | | | | | |
| | | (控除)補助金 | | | | | | | | | | | | |
| | | 計 E | | | | | | | | | | | | |
| 国内生産額 D+E | | | | ↓ | | | | | | | | | | |

原材料等の中間投入及び粗付加価値の構成 (投入)

ウ

イ

(1) タテ方向

まず、表をタテの列方向にみると、表頭の各産業がその製品を生産するのに要した費用の構成（投入：Input）つまり、生産のために原材料をどこからどれだけ買ったか（いくら支払ったか）が分かります。さらに、企業の利潤等、生まれた価値はいくらかが分かるようになっています。このうち、生産のために使用した原材料のことを「中間投入」といい（図のア）、生産活動によって生み出された価値、すなわち、生産活動に伴って支払われた賃金（雇用者所得）や企業の儲け（営業余剰）などのことを「粗付加価値」といいます（図のイ）。

(2) ヨコ方向

表をヨコの行方向にみると、表側の各産業が生産した商品の販路の構成（産出：Output）が分かります。つまり、生産物をどこへどれだけ売ったかを示しています。このうち、各産業へ原材料として販売される分を「中間需要」といい（図のア）、家計、政府などで消費されたり、企業などの投資や外国の需要に応じて輸出したりする分を「最終需要」といいます（図のウ）。

(3) 表全体

産業連関表を全体的にみると、粗付加価値部門（図のイ）と最終需要部門（図のウ）を「外生部門」といい、中間投入部門及び中間需要部門（図のア）を「内生部門」といいます。また、タテの列方向からみた投入額の計（国内生産額）とヨコの行方向からみた産出額の計（国内生産額）とは、すべての部門について相互に一致しており、この点が産業連関表の大きな特徴になっています。産業連関表のタテ・ヨコの各部門の関係は次のとおりです。

[各行、各列の部門ごとに成立]

$$\text{総需要額} = \text{総供給額}$$

$$\text{国内生産額} = \text{中間投入額} + \text{粗付加価値額}$$

$$= \text{中間需要額} + \text{最終需要額} - \text{輸入額}$$

[部門の合計額についてのみ成立]

$$\text{粗付加価値額合計} = \text{国内生産額合計} - \text{中間投入額合計}$$

$$= \text{最終需要額合計} - \text{輸入額合計}$$

$$\text{最終需要額合計} = \text{国内生産額合計} + \text{輸入額合計} - \text{中間需要額合計}$$

$$= \text{粗付加価値額合計} + \text{輸入額合計}$$

産業別生産勘定関連図

付加価値法の概要

付加価値法は、コモディティ・フロー法により推計された商品別の産出額を、産業別の産出額に転換し、産業別商品産出表（V表）を作成し、その産出額に中間投入比率を乗じて中間投入額を推計し、産業別商品投入表（U表）を作成して、当該産出額から中間投入額を差し引くことにより、産業別国内総生産（付加価値）を推計する。

また、実質値は産業別産出額と産業別中間投入額をそれぞれ実質化し、その残差として求めるというダブルデフレーション法によって推計する。

産業別生産勘定関連図

| | 商品 | 産業 | 最終需要 | 産出額 |
|------|---------|---------|---------|--------|
| 商品 | 産業連関基本表 | U表 | 商品別最終需要 | 商品別産出額 |
| 産業 | V表 | | | 産業別産出額 |
| 付加価値 | | 産業別付加価値 | | |
| 産出額 | 商品別産出額 | 産業別産出額 | | |

U：U表（産業別商品投入表）

V：V表（産業別商品産出表）